

## 第3回田辺市森づくり構想策定等委員会 会議録

日 時	令和2年11月13日(金) 午後1時30分～午後3時45分
場 所	田辺市役所 大塔行政局 4階 会議室5
委 員	3名 ※欠席者なし
そ の 他 出 席 者	林業関係者 5名
傍 聴	個人の林業経営の内容等を含むため、傍聴の受付なし
会議事項	1. 開 会 2. 林業関係者との意見交換 (1) 森林組合 (2) 個人林業家 3. 次回の委員会日程について 4. 閉 会

### 1. 開 会

### 2. 林業関係者との意見交換

田辺市森づくり構想策定等委員会条例第5条の規定に基づき、委員長が議事進行を執り行う。

#### (1) 森林組合との意見交換

##### 【担い手の確保・育成等】

- ・森林所有者を担い手に育てることが大切。今の従事者としてだけでなく、組合役員として林業経営の話ができる人もいなくなる。次世代の後継者として地域に4～5人は必要。
- ・森林組合が担い手の中心となり、林業をリードしていく役割は大きい。
- ・新たな担い手として全国的に自伐型林業の動きもある。
- ・重機を所有する梅農家は、林業の閑散期と梅の繁忙期が重なり、自伐型林業に馴染むのではないか。
- ・山村は人がいれば資源もあり活性化できる。面白味もある。
- ・若い世代が山に関わる場面や研修などの場が少ない。
- ・企業の森事業は人材育成に大いに役立つ。山を歩くだけでも難しく、簡単な作業で山に慣れていくことが大事。難しいことからしても事故につながる。
- ・雨の日の仕事が確保できれば、林業従事者の収入は改善する。
- ・働き方改革により安全管理が厳しくなり、過重労働への配慮も必要。

##### 【森林施業等】

- ・田辺では密植により高品質材を生産してきた。同じことを続けることが大事な部分もある。
- ・広い林道の必要性は高い。
- ・大規模な皆伐は環境への影響から批判されることもあるが、循環させることが大切。他の地域と比べ再造林率も高く裸地は少ない。

- ・木を使うことは時代の流れ。官公庁は率先して使ってもらいたい。

#### 【森林教育等】

- ・子どもを対象に森林体験や見学が良い。子どもが林業機械を見る機会はなく喜ばれる。

#### 【森づくり等】

- ・林業の活性化無くして山村は元気にならない。
- ・熊野古道や国道、旧国道沿線は、伐採、搬出に費用と技術が必要。人材がいる今しないと対応できなくなる。
- ・適地適木ができていない山が少ないことは我々も反省すべき。
- ・昔から言われる山づくりとして、天空三分（てんぞらさんぶ）はその一つで良い取組。
- ・全国を見ても林業適地は少ない。当地域は材質の色艶の良い材が育つ数少ない地域。

### （2）個人林業課との意見交換

#### 【森林施業等】

- ・手入れされていない森林はコストと手間が掛かり施業も難しい。定期的な手入れが効率化につながる。
- ・小さい山ほど手入れが必要だが、権利関係が複雑で結果につながらない。
- ・個人林業は安定的な業務の確保に不安がある。
- ・施業の省力化も必要だが、作業の先送りはコスト増となることもあるし、その前に技術を高めて材の価値につなげる努力が重要。
- ・森林組合と個人の小さな会社が協力していかないといけない。

#### 【担い手の確保・育成等】

- ・担い手の育成には3～4年は必要。経費もかかり個人経営での育成は難しい。
- ・業務量が安定しないと未来への投資は難しい。

#### 【森づくり等】

- ・綺麗な山に仕立てるためには、植栽から伐採までの施業計画を立てることが大切。
- ・森林組合と林業経営者、現場作業員でも考えは異なる。理念を合わせていくことが大切。
- ・田辺市は広い。地域別に森づくりを考えても良いのではないか。

### 3. 次回の委員会日程について

次回、令和2年11月26日（木）午後1時30分から開催することを報告。

### 4. 閉 会